

Moodle マニュアル

リソース複製機能

名古屋工業大学
情報基盤センター

1. 概要

このプラグインは、あるコースのリソース参照権限を与えられた教員が、そのコースで作成された任意のリソースを、自分が管理しているコースで直接参照できるようにするプラグインです。

このプラグインで作成されたリソースは、参照元のリソースの内容が変更されたとき、同様に表示内容が変更されます。

2. 設定方法

例として、教師 A が自分のコース「コース A1」に作成したリソースを、教師 C が自分のコース「コース C1」で参照する場合で説明します。

2-1. リソース参照を許可する側（教師 A）の設定

1)まず、「コース A1」内の「管理」ブロックにある「ロールの割り当て」をクリックします。



図1 コース A1・ロールの割り当て (1)

2) 「ロールの割り当て」画面が表示されます。プラグインが正常にインストールされていれば、割り当てることができるロールに「参照許可ユーザ」が追加されているので、これをクリックします。



図2 コース A1・ロールの割り当て (2)

3)表示されたユーザの中から、参照を許可するユーザ（教師 C）を選択し、
ロールを割り当てます。

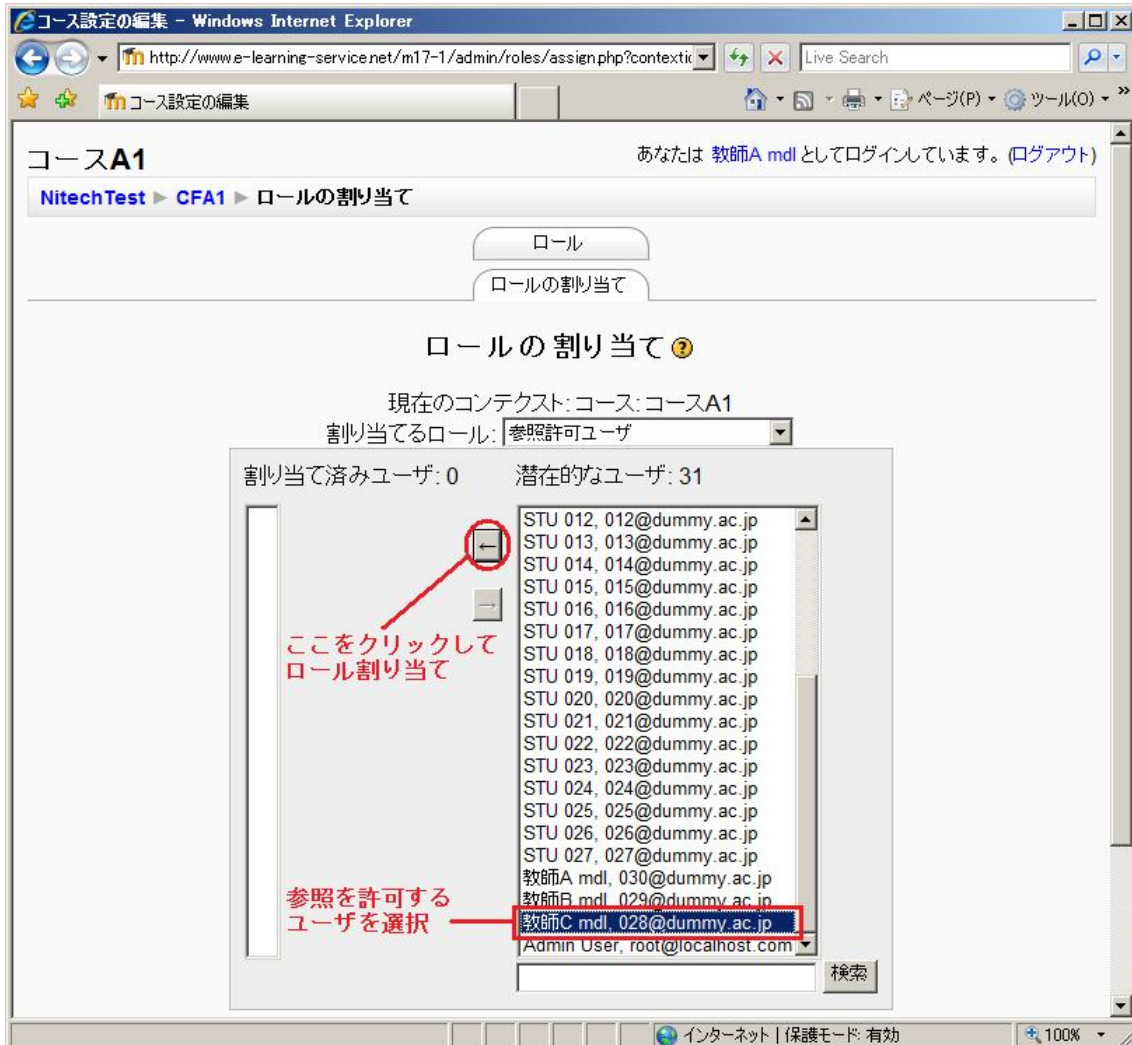


図 3 コース A1・ロールを割り当てるユーザの選択

ロールが割り当てられると、次のような画面になります。

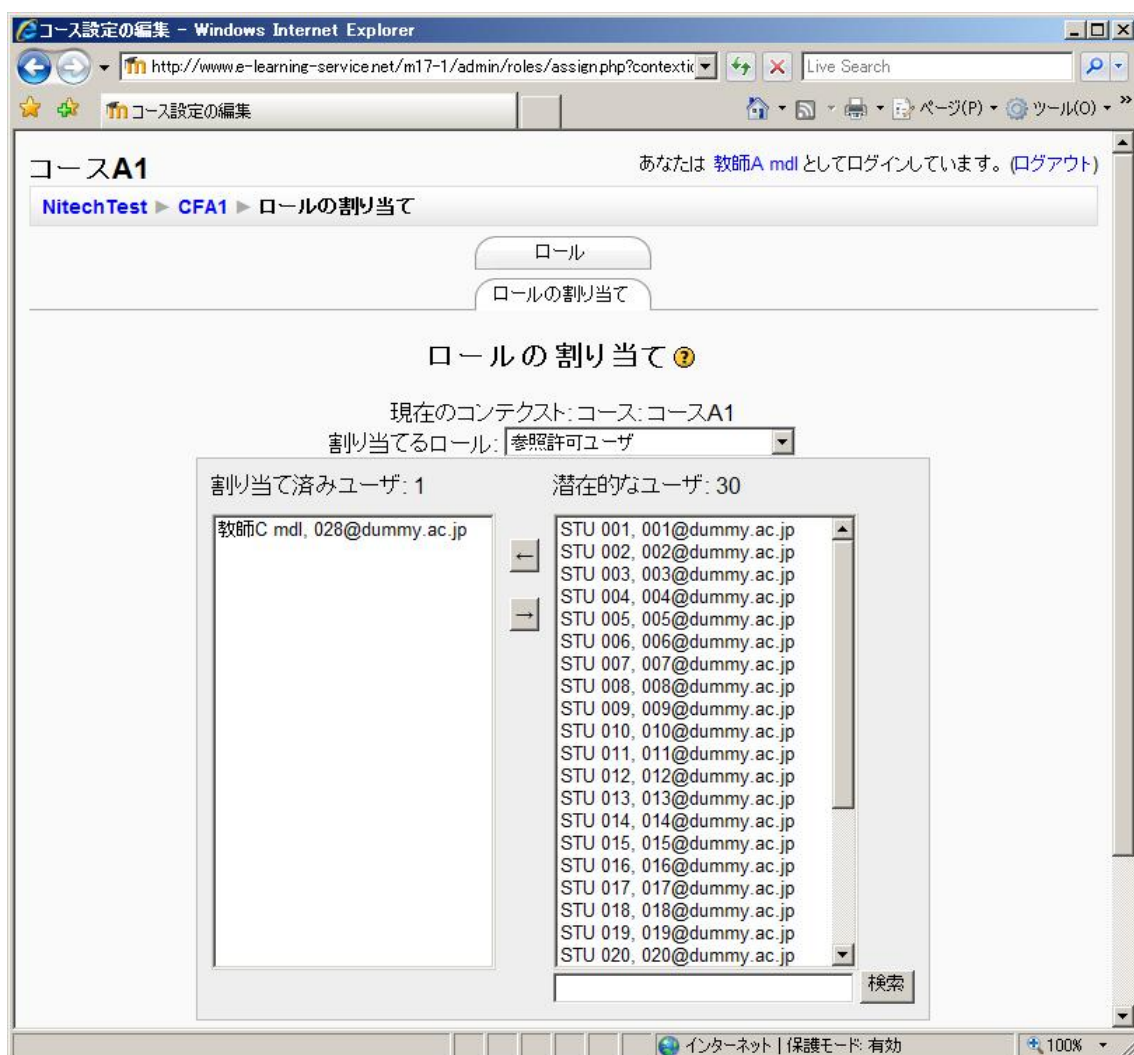


図 4 コース A1・ロールの割り当て完了

これで教師 A 側の設定は完了です。

2-2. リソースを参照する側（教師 C）の設定

1) 教師 A から「参照許可ユーザ」のロールを割り当てられたら、教師 C は自分のコース「コース C1」を編集モードにし、「リソースの追加」セレクトから「リソースの参照」を選択します。

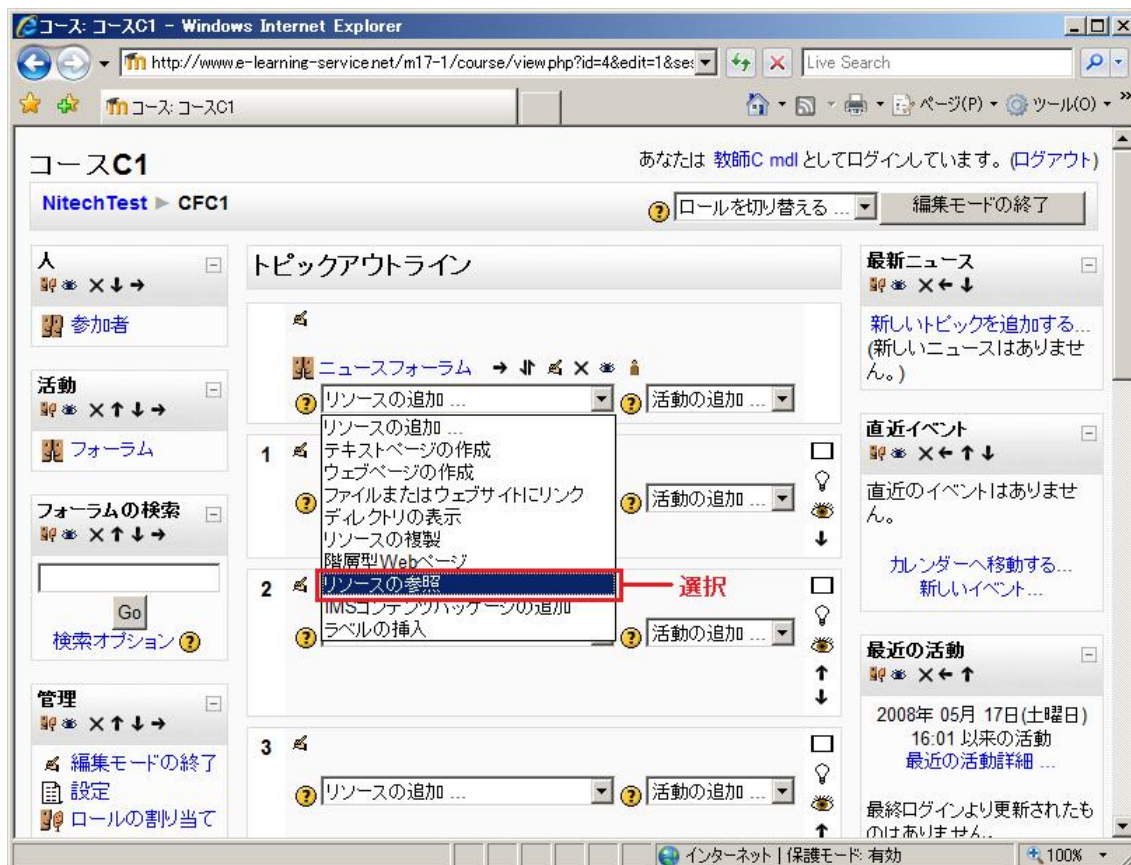


図 5 コース C1・リソースの追加

2) 「リソースの参照」設定画面が表示されます。「許可されたコース」のセレクト内に、教師 A から参照を許可されたコース「コース A1」が表示されるのでこれを選択し、「このコースを使用する」ボタンをクリックします。

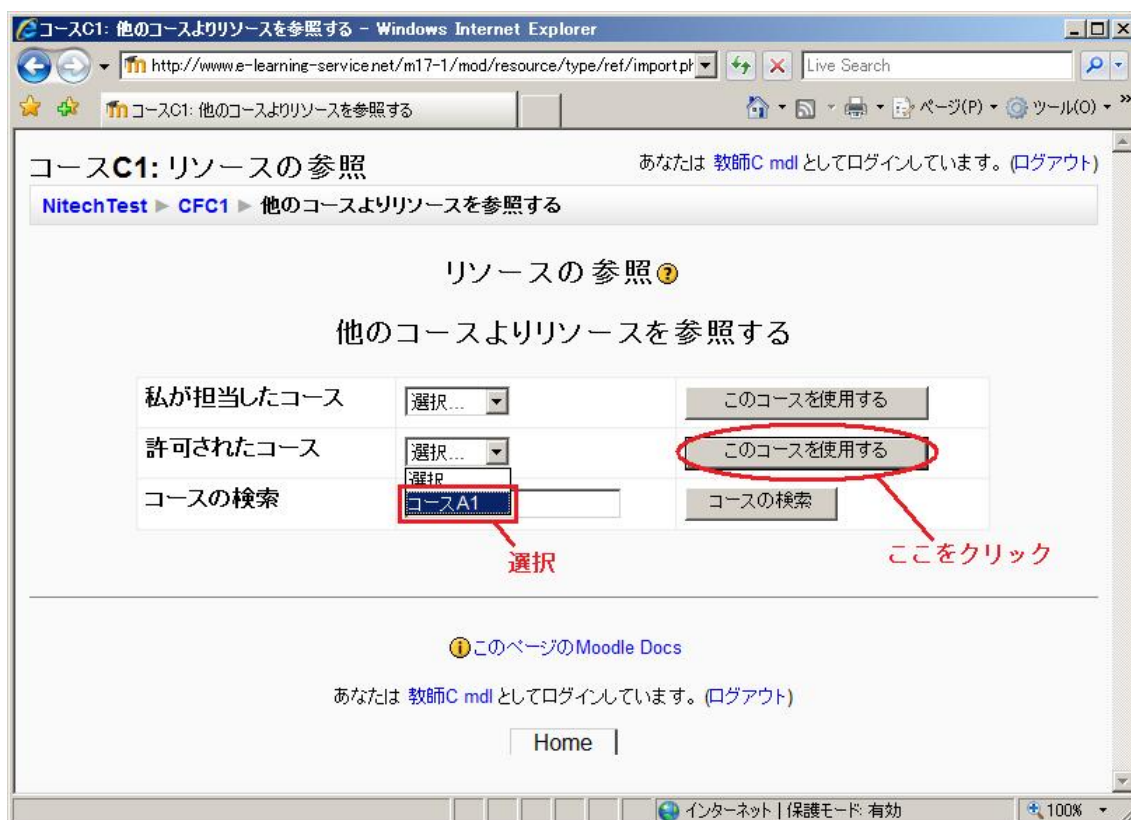


図 6 コース C1・参照したいリソースのあるコースの選択

3)設定画面に、選択したコース内にある全てのリソースが表示されます。

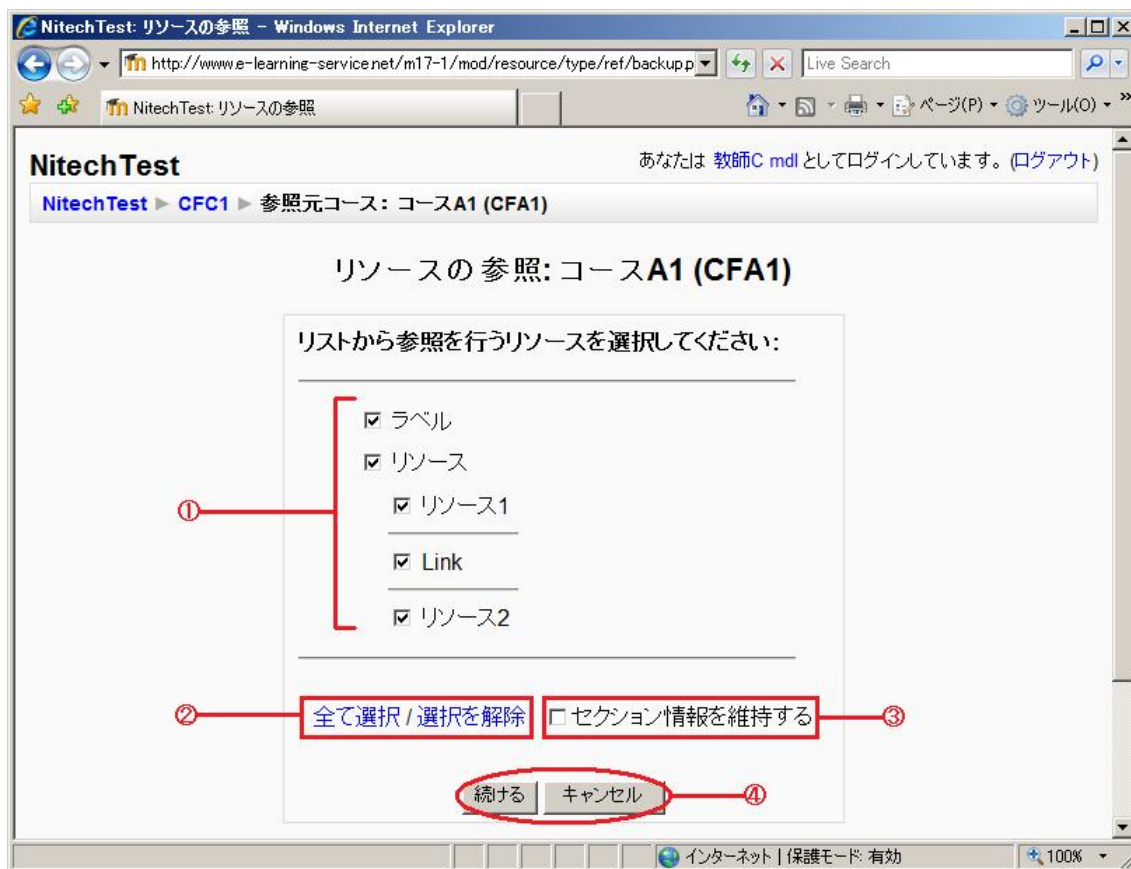


図7 コースC1・参照したいリソースの選択

①参照したいリソースにチェックをつけます。初期設定では全てのリソースにチェックがつけられています。

②「全て選択」をクリックすると、表示されているリソース全てにチェックをつけます。「選択を解除」をクリックすると、全てのチェックをはずします。

③ 「セクション情報を維持する」にチェックをつけると、リソースは参照元のコースと同じ位置に配置されます。



図 8 コース C1・リソース参照完了 (セクション情報維持)

チェックをはずしていると、リソースは自分のコースの「リソースの参照」を選んだセクションに、一纏めにして配置されます。



図 9 コース C1・リソース参照完了 (セクション情報維持せず)

※参照元である「コース A1」より「コース C1」のセクション数が少ないときに「セクション情報を維持」にチェックをつけると、「コース C1」に存在しないセクションにリソースを配置するような事態が起きることがあります。その場合、存在しないセクションに配置されようとしていたリソースは、「リソースの参照」を選択したセクションに配置されます。

例：

- ・「コース C1」のセクションが全部で 5 つだとすると、「コース C1」には「コース A1」の「リソース 2」を配置できるセクションが存在しません。



図 10 存在しないセクションでのリソース参照（参照前）

- ・「コース C1」を編集モードにし、「最上段のセクション」で「リソースの追加」セクタから「リソースの参照」を選択し、設定画面で「セクション情報を維持」にチェックしたとすると、存在しないセクションにある「リソース 2」は「コース C1」の「最上段のセクション」に配置されます。

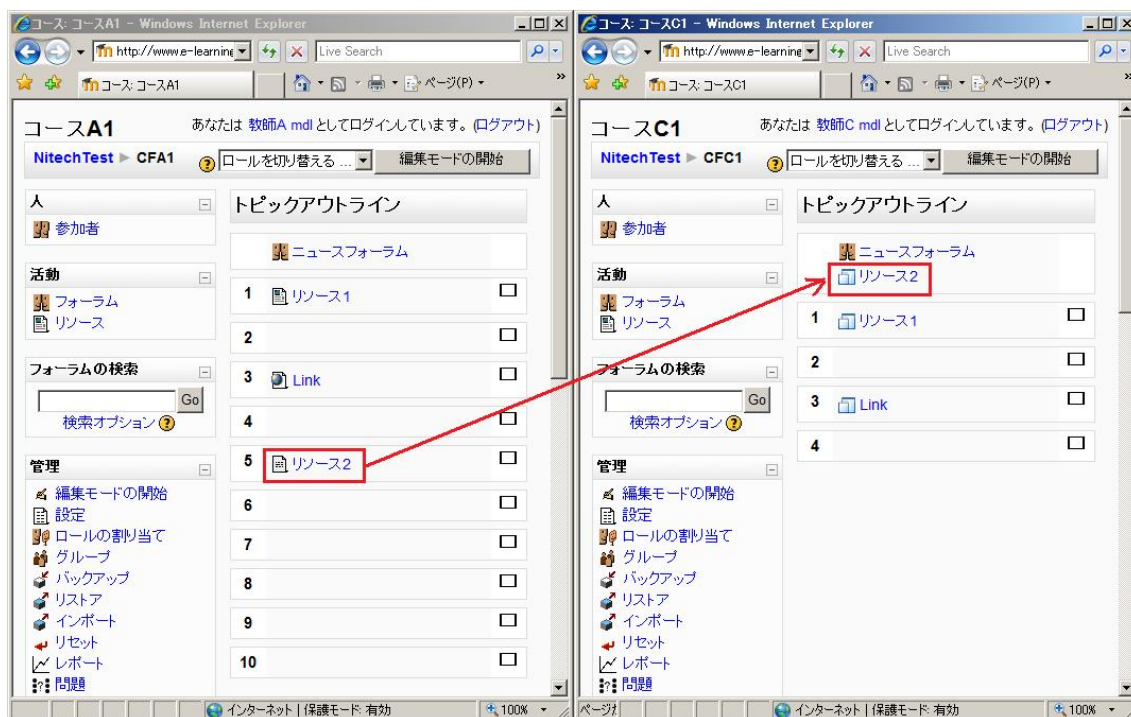


図 11 存在しないセクションでのリソース参照（参照後）

- ④設定が完了したら、「続ける」ボタンをクリックして次へ進みます。何も設定せず終了する場合は、「キャンセル」ボタンをクリックします。

4) 図 7 の④で「続ける」ボタンをクリックすると参照するリソースの確認画面が表示されるので、その設定でよい場合は「続ける」ボタンを、設定を変える場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。

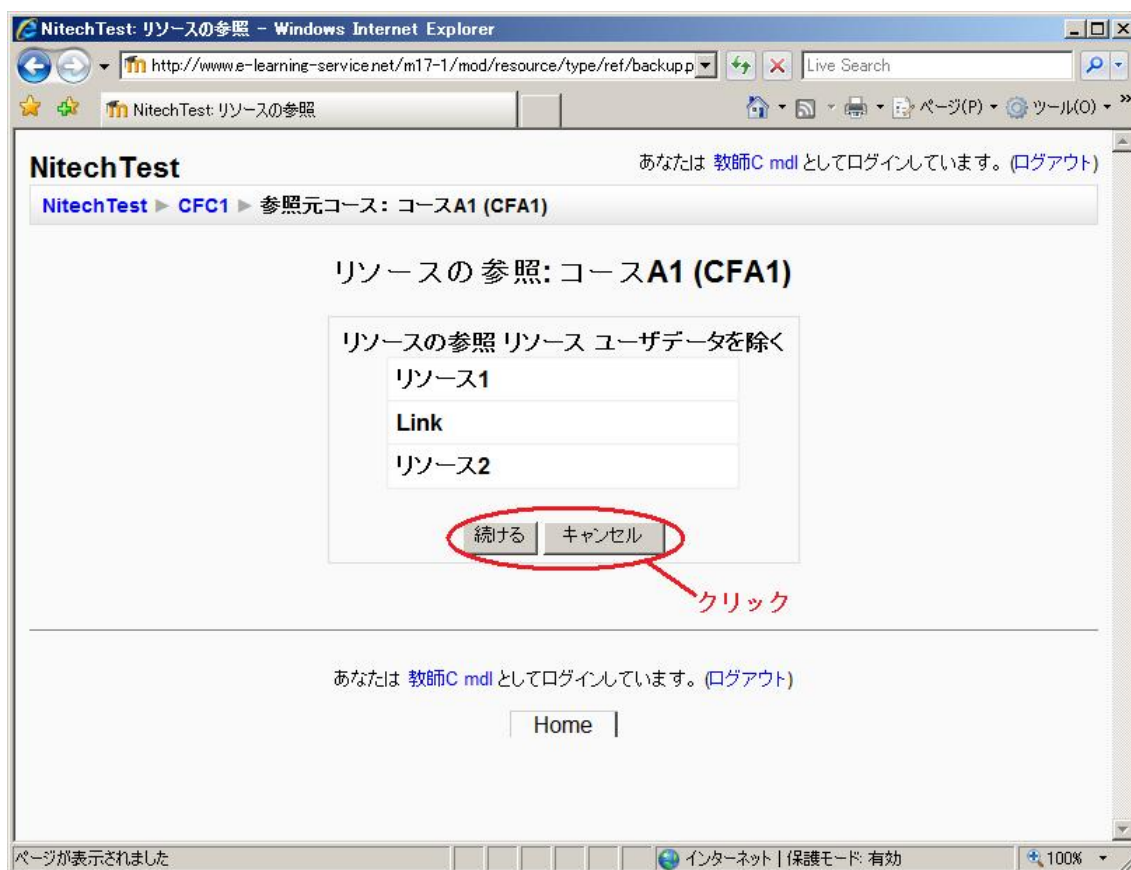


図 12 コース C1・参照するリソースの確認

5) 図 12 の画面で「続ける」をクリックすると、参照元コース（コース A1）のコースデータのエクスポート情報画面が表示されます。「続ける」ボタンをクリックします。

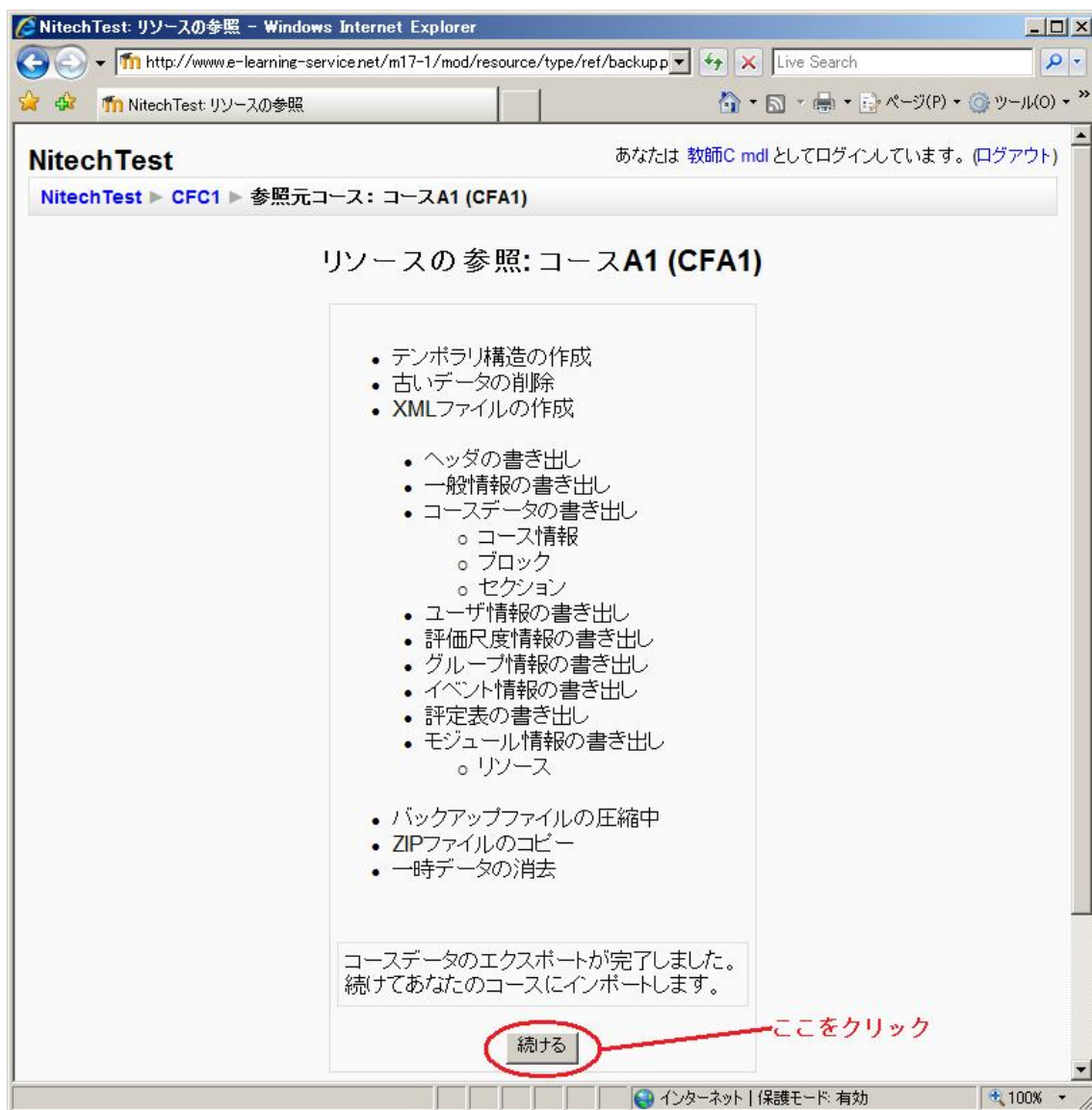


図 13 コース C1・コース A1 のデータのエクスポート情報

6)インポートが成功すれば、「コース C1」へのデータのインポート完了画面が表示されます。「続ける」ボタンをクリックすると、「コース C1」に戻ります。

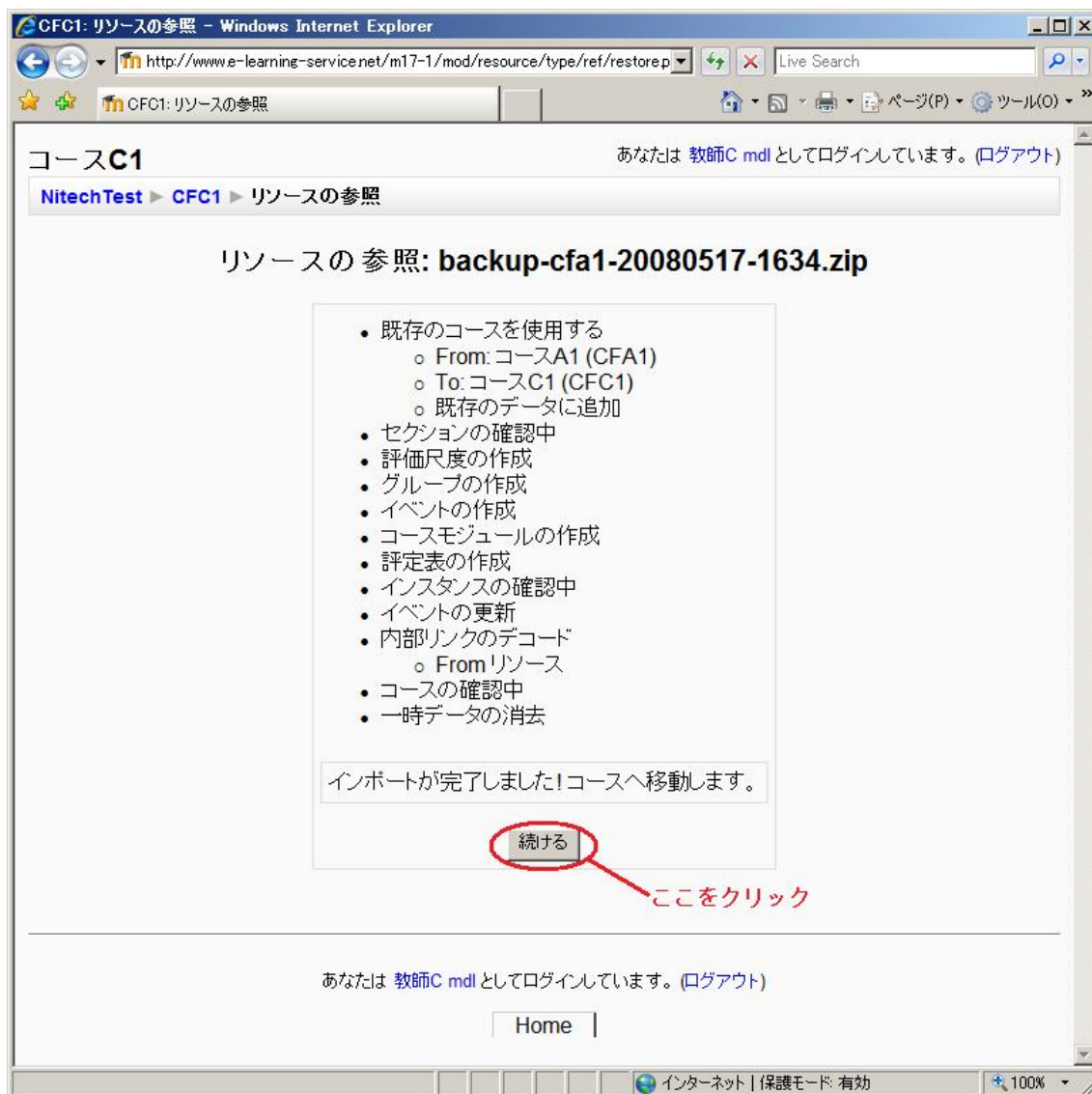


図 14 コース C1・コースデータのインポート完了

3. 参照後のリソース

1) リソースの編集

参照を行ったリソースは、自分のコースに表示するときの名称のみ変更することができます。リソース内容の編集は行えません。

また、A1 コースのリソースの内容を編集すると C1 コースに作成した参照型リソースで表示される内容も同じ内容に変更されます。



図 15 コース C1・リソース内容の編集

2) リソースの閲覧

自分のコースで参照したリソースは、そのコースに登録しているユーザであれば、全員が閲覧することができます。

「コース C1」で参照した「コース A1」のリソースを「コース C1 に登録しているユーザ」が閲覧する場合、そのユーザは「新たにコース A1 に登録する」、または「教師 A から許可をもらう」などの追加操作を一切やる必要はなく、他の「コース C1」のリソースと同じように閲覧することができます。